

令和 7 年度 県立竜ヶ崎第二高等学校自己評価表

目指す学校像	1 社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校 2 確かな学力と豊かな心、健やかな体を育成する学校 3 社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人財が育成される学校 4 望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財が育つ学校				
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人財 ・望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財		B	B 持続可能な社会の担い手として、地域社会に貢献できる課題意識を持った人財の育成を図る。 ICT を積極的に活用し、個別最適な学びとなるように努める。その結果生徒の進路実現を図れるような指導方法の改善を推進する。 規範意識を高め、様々な場面で生徒が主体的に活動できるような場面を設定する。Web ページ等でこれらの活動を積極的に発信し受験希望者に周知していく。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの幅広い生徒の進路希望の実現		A	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・学校や社会の規律を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに取り組む意欲のある生徒		B	
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
【成果】 ○国公立大学の合格をはじめ大学・短大を志望する生徒の希望を叶えた進路実現を果たすことができた。(進学希望者中の大学・短大進学者率(令和5年度35%、令和6年度45%))の向上や、看護専門学校への進学者も増加している。また、学校幹旋による就職率はほぼ100%達成することができた。 ○1年次の国語や数学における習熟度別やTTでの授業展開により、基礎学力及び授業への集中力が向上している。 ○部活動の加入率は約4割弱ではあるが、バスケットボール部をはじめ、陸上競技部・弓道部・ライフル射撃部など運動部で実績を残している。 ○本校の広報活動の充実のために、学校 HP やスクールガイド、年6回の学校通信の発行等の内容充実に努めることができた。		確かな学力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの実現のための BYOD 端末等の活用（ロイロノート等の積極活用） ② 指導と評価の一体化を図り、観点別評価の充実を推進 ③ ICT 機器を活用した授業実践により、基礎学力向上や探究活動における協働的な学びを促進し、柔軟かつ多様な指導を実現 ④ 教科等を横断した探究活動を実践し、課題解決力能力の育成と発表等による表現力の醸成		A
		授業改善の推進	⑤ 生徒による授業評価での授業満足度を 3.3 以上にすることを目標とし、積極的な研究授業や相互授業参観等による各教員の		A

別紙様式 2 (高)

○商業科・人間文化科においては、資格取得を目標に、各種検定試験合格に向けた熱心な指導が行われている。家庭科技術検定では4冠王を達成した生徒もいる。 ○龍ヶ崎市市役所・商工会・地元企業等との交流が活発化し、商品開発や商品のパッケージ作成など多岐にわたる活動が行われた。 ○商業科と人間文化科の生徒たちがコラボして、「龍ヶ崎で収穫できる食材」を使用したクロックが、全国クロックフェスティバルで「龍ヶ崎クロック会長賞」を受賞した。 【課題】 ○My りゅうプロジェクト(県立高等学校等チャレンジプロジェクト)を生かし、地域社会と連携した教育活動を一層推進していく。さらには、学科等の枠を超えた3年間の系統的、計画的な探究活動を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員研修を計画的に実施し、お互いにフィードバックできる環境を整備する。 ○基礎学力の定着を図る必要がある生徒が多数入学している現状を踏まえ、ICT機器を活用するなど、きめ細かな授業改善を行う。 ○ICT環境を生かした教育活動を展開するための研修を実施し、ICT機器の活用のノウハウを教員間で共有し、連携を図る。 ○生徒の第一希望校の進路実現に向けた指導の充実を図る。 ○部活動加入率の向上のために広報活動を充実していく。 ○生徒との個人面談や定期的なアンケート、保護者との密接な連携等をととして、生徒理解に努め、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ○会議・委員会等の種類及び回数を見直し、校務分掌や各種委員組織の再編を進め、教職員の業務の軽減、平準化を図る。			メタ認知力の向上		
	生徒の希望や目標の実現		⑥ 資格取得試験の受験支援や課外指導の充実		A
	社会で活躍するための基礎的な力の育成		⑦ 生活マナーや規範意識の向上と安全能力の育成 ⑧ HR・生徒会活動への支援や学校行事の充実 ⑨ 個別面談や定期的なアンケートの実施と教育相談の充実		B
	キャリアパスポートの運用		⑩ 将来を見通した3年間の組織的・系統的なキャリア教育体制の構築		B
	社会に開かれた魅力ある学校づくり		⑪ ボランティア活動および地域の活動への積極的参加 ⑫ 近隣の学校との教育交流の充実および、産官学福の連携による地域活性化の推進 ⑬ 学校Web サイトの充実や学校案内等を活用し、教育活動の情報を広く発信		A
		働き方改革への取組	⑭ ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善と教職員の働き方についての取組を生徒や保護者等へ周知 ⑮ 各校務分掌において Classroom を活用し、業務内容や進捗状況を共有することで会議等の時間短縮		A
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
国 語	授業改善を通じて基礎学力の向上を図る。	・研究授業や相互授業参観等により授業改善を行い、内容を工夫した授業を展開する。⑤		B	B ・相互授業参観は一部で行われたものの、一度きりであった。活発に意見交換ができる雰囲気を作っていきたい。
		・ICTを活用し、漢字、現代文単語等の一般常識分野を学習する時間を継続的に設け、定着を図る。③		B	

別紙様式 2 (高)

	個に応じた指導の充実を図る。	・ロイロノートなどの ICT 機器を効果的に活用しながら、すべての生徒が主体的に学習に取り組めるよう支援する。①	A		・ ICT を活用した、一般常識分野の学習の機会是不定期に行っていたため、定着のため頻度を上げていきたい。 ・ 小論文指導はしていたものの、学年との連携はできていなかった。協力して支援していきたい。
		・ 3 学年古典探究において、T T 授業および少人数授業を展開し、ICT 機器を利用しながら個に応じた指導を行う。③	A		
	進路に応じた指導の徹底を図る。	・ 小論文指導について学年と連携をとりながら、進路実現を見据えた指導を計画的に行う。⑥	B		
		・ 進路希望に応じて選択できる課外のコースを設置し、生徒の進路実現を支援する。⑥	A		
地 歴 公 民	基礎学力の向上や授業改善を図る	・ 生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。①②③	A	B	・ どの科目でも調べ学習等を取り入れ、生徒の思考判断表現力を高めることが出来た。 ・ 共通テスト受験者に向けた課外など進学者向けの対応を早い段階から行いたい。
		・ 本時のまとめの内容などから理解度を把握し、授業改善を図る①②③⑤	B		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を目指す。	・ 主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。①③	A		
		・ I C T機器を活用し、ビデオや画像などビジュアルな手法を授業に取り入れ、考え気付かせる授業を展開する。①③	A		
	個に応じた進路実現を考えた授業展開を目指す。 基礎学力の向上を図る。	・ 一般常識の見識を高め、大学受験から就職試験まで対応できる力を身につける。②④	B		
		・ 生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。①②③	B		
	思考力・判断力・表現力を育む授業力向上。	・ インターネットやワークシートを活用し、身近な教材を取り入れることによって理解しやすい授業を展開する。①②③	A		
		・ 主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。①③	B		
	政治的教養を高めるための授業展開を目指す。	・ 新聞・ニュースなどを活用することで、政治的教養を高められる授業を展開する。②④	A		
数 学	数学的なものの見方を身につける。	・ I C T機器の活用等で授業を工夫し、魅力ある教科指導に努める。③	B	B	・ 学力差がついて、数学が苦手な生徒は義務教育内容すら怪しい。常日頃からの指導で穴を埋めていきたい。 ・ 各学年、生徒の進路状況に応じて課外を実施していく。
		・ 理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。②	B		
	基礎学力の向上や授業改善を図る。	・ 教科書に限らずプリントや問題集を活用し、十分な演習を行う。①	A		
		・ 課外や数学検定に積極的に取り組ませる。⑥	B		
		・ 授業の様子や生徒の授業評価を基にした、ニーズに合わせた授業を展開する。⑤	A		
	進路実現に必要な指導を行う。	・ 生徒一人ひとりの進路希望に対し、必要に応じて個別指導を行う。⑤	B		

別紙様式 2 (高)

理 科	基礎学力の向上や授業改善を図る。	・教科書だけでなくプリント等を活用し、生徒達の理解度を確認しながら授業を展開する。②	B	B	・多くの実験をすることができ、科学的な興味関心を育てることができた。 ・3 学年で ICT 活用を積極的に行い、効率的な学習を定着することができたので、次年度は他の学年でも実施していきたい。
		・ノートや実験レポートの提出を徹底させる。実験レポートに振り返りの項目を設置し、教員の授業改善に努める。⑤	B		
		・演習や小テストを実施し、理解を深める。④	B		
	関心・意欲を高める指導法の工夫改善に努める。	・生徒実験、 演示実験を通して理解と興味関心を高める。また、 実験を通して協調性を育てる。③	A		
		・グループ活動を通して対話のある授業を展開する。③	B		
		・I C T機器を用いて、動画などを見せ、自ら調べることを通して、科学的な興味を高める。①②	B		
	進路実現に向けた指導を目指す。	・基本的な問題を通して一般常識の見識力を高める。③	B		
保健体育	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを理解できるようにする。	・各種目のスキルテストや体力テストを通して、個人の習熟度や運動能力の成長を確認させ、授業改善に生かす。①	A	A	・授業の中ではよく動いているが、生涯スポーツや健康という観点から運動に取り組ませることの難しさを感じたので、ただ運動をするだけでなく、生涯の健康につながるような授業を工夫していきたい。
		・主体的かつ意欲的にスポーツに取り組む姿勢を育てる。⑤	A		
	公正、協力、責任等の態度を育て、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	・生活習慣病の予防と運動には大きな関係があることを理解させる。②	B		
		・いろいろな種目に取り組ませ、生涯スポーツを見つけさせる。②	A		
		・時間やルールを守らせ、自ら進んで活動させる。⑦	A		
	生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	・健康の考え方や保持、増進について理解させる。①	B		
		・適切な食事、運動、休養及び睡眠などが、健康的な生活習慣に必要であることを理解させる。④	A		
芸 術	音楽に関する基礎知識を定着させる。	・小テストや定期テストで基礎知識の定着を図る。①⑤⑥	B	A	小テストも実施したが、定期考査での一時的な記憶にのみとどまってしまう生徒が一定数いることから、小テストの内容及び実施時期の精査及び定期考査の実施の有無が、次年度の課題である。活動を通して、こちら側から提示する目標に到達しようと努力する姿は見られるが、それ以上の
		・日常生活で聴く音楽との関連を理解させ興味関心を深めさせる。また生徒が創作や器楽等演奏時に必要な基礎的内容の充実を図る。①③⑤	A		
	音楽自体の関心を高められるように努める。	・様々な楽器や歌などの活動を通して、様々な音楽を知ることによって生涯を通して楽しめる演奏活動を探究できるよう授業内容の工夫を図る。①⑩	A		
		・音楽に関する歴史などの興味を高められるよう授業内容の工夫を図る。④	A		
	生徒の主体的な行動を促す。	・評価の基準を明確にし、生徒が意欲的に取り組めるよう図る。⑤	A		
		・ICT を活用し、グループ活動、ペアワークを通じて、生徒同士のコミュニケーション力を高められるよう授業内容の工夫を図る。①②③	A		

別紙様式 2 (高)

	生徒の進路に応じた授業内容の工夫を図る。	・歌唱や器楽等の活動を通して、自己目標を立て計画的に授業に取り組めるよう授業内容の工夫を図る。①②③⑥	B		目標や自己目標を立てられるよう支援していくことが次年度の課題である。
		・資格取得や進路実現に向けた授業内容の工夫を図る。②③④⑥⑩	A		
外国語	意欲・関心を高める指導法の工夫・改善に努める	・ペア活動やグループ活動、ALTとのチームティーチングなどを通して、生徒自身が英語を使用してコミュニケーションを行う機会を提供し、お互いが協力し合う学習環境を整える。①	A		・昨年から週3日ALTを活用して、多くの生徒がネイティブとの授業を楽しめた。 ・生徒のレベルに合わせて、授業についていける実感を持たせることができた。 ・英検にチャレンジする生徒も増えてきた。 ・課題としては、AIが発達するのは、止められないため、その利用をしっかりとできるような練習というものも今後の学習で積極的に取り入れるべきか考え中である。
		・ICT機器を用いたパフォーマンステストや発表活動等を通して、個の目標に応じた指導を展開する。②③	B		
	個の能力に応じた指導を展開する。英語検定の資格取得に努める。	・学力上位層の生徒に対して、積極的に進学課外の受講・英語検定の受検を促し、各生徒の自信に繋げる指導を行う。②	A		
	基礎学力の向上や授業改善を図る。	・普段の授業からワークシートや発問のレベルを複数段階設けることで、生徒を飽きさせずさらに上のレベルに上がるような動機付けと支援を行う。②⑤	A		
家 庭	基礎学力の向上のための授業改善を図る。	・生徒の能力に応じた、教材・教具の開発を図る。⑤	A	A	・生成AI研修を行うなどして効果的なICT活用に向けた。さらに教員の業務効率化に向けても活用できるように検討していく。 ・技術定着に向けてマイスターや外部講師利用を行うことができた。 ・週1回の科会を通して家庭科教員内の共通理解を十分に図り、授業、業務改善に向けて話し合いの場を持つことができた。 ・生徒が意欲的に学習に取り組む課題の提示や評価の在り方が課題である。
		・基礎的な学習や実技を繰り返し行うことにより、基礎学力・基礎技術の定着を図る。⑤	A		
		・指導と評価の一体化を図り、観点別評価の充実を推進する。②	B		
		・「主体的・対話的で深い学び」の視点で、ICTの活用率を高め、授業の記録を丁寧に残し授業改善を行う。①③④	A		
		・TT授業、外部講師や県のものづくりマイスターを利用することにより、技術の定着を図る。①	A		
		・様々なコンテストでの上位入賞を目指す。③	B		
	資格取得に努める。	・生徒が各検定に真剣かつ意欲的に取り組めるよう、丁寧な指導を心がけ、合格率90%以上を目指す。また、生徒の向上心を培う。⑥	A		
	社会体験学習の充実を図る。 介護実習 保育実習 学校家庭クラブ活動	・自ら進んで考え行動する能力と責任感を身につけさせる。④	B		
		・礼儀や丁寧な言葉遣い、挨拶、マナーを身につけさせる。⑦	B		
		・家庭クラブ活動をととして、地域社会との連携を図る。地域への情報発信の強化に努める。⑩⑪⑫⑬	A		
		・奉仕活動やエコ活動をととして、環境問題・社会問題に関心を持たせる。④	B		
情 報	情報と情報技術を活用して	・科学的な根拠に基づいた判断力を身につけさせる。①	A	A	・情報社会を生きるための生

別紙様式 2 (高)

	問題を発見・解決する方法を身につける。	・合理的に解決方法を選択する力を身につけさせる。①	A		徒自身の役割や及ぼす影響について、十分に理解することができるようになった。 ・生徒の今後の絶え間ないスキルアップを目指す。
		・過程を振り返って改善する力を身につけさせる。④	A		
		・情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための技能を身につけさせる。④	B		
	情報に関する法規や制度、情報セキュリティ・情報モラルの重要性、情報社会における個人の責任について理解する。	・法律や制度・情報セキュリティや情報モラルの意義を理解させる。⑦	B		
		・バックグラウンドの情報技術を知って適切に対応する力を身につけさせる。⑦	B		
	情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。	・人に求められる仕事の変化を理解させる。⑩	A		
		・情報社会をよりよくする方法・対応を考察し提案する力を身につけさせる。②⑤⑥	A		
商 業	基礎学力の向上のための授業改善を図る。	・学び直しを含めた基礎学力の向上を図り、生徒の能力に合った授業の工夫や指導方法の改善に努める。②③⑤	B	B	・学習に対する生徒の興味・関心を促し、見ること、聞くこと、話し合うこと等のバランス良い展開をする。 ・それぞれの資格取得の目的を明確にすること。資格は独立したものではなく連携したスキルということを理解させ、進路活動をはじめとして自己肯定感や学習に対する達成感を持たせる。
	職業人の育成を図る。	・キャリア教育として職業人に求められる倫理観、マナーや常識を身につけさせ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけさせる。⑦	B		
		・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業や実技の学習をととして、自ら学び協働的に取り組む態度を養う。④	B		
	資格取得に努める。	・生徒の能力に見合った基礎級の合格率向上に努めるとともに、より高度な上級資格の取得を目標とさせる。⑥	B		
		・資格取得により自信を持たせ、生徒の学習意欲を高める。⑥	B		
教務部	授業の工夫や改善を図る。	・生徒による授業評価及び、互見授業により、授業の工夫や指導方法の改善に努める。④⑤	B	A	・空き時間の数分間や特定の指導場面を互いに見せ合うなど、負担軽減した持続可能な互見授業の展開。 ・図書館の再整備と図書委員による企画・発信など主体的な活動の活性化。 ・令和9年度の県高P連会長校・県南幹事校に向けた校内
	目標実現のための学習意欲の向上を目指す。	・習熟度別授業の展開や資格取得支援、課外指導など、個に応じた指導の充実を図る。⑥	A		
	I C T環境の活用を推進する。	・I C T機器活用のための環境整備を継続し、校内研修を通じてI C T機器活用のノウハウを教員間で共有し、連携を図る。①③	A		
	広報活動の推進と充実を図る。	・本校の魅力をW e b ページやスクールガイド等で発信するとともに、地域と連携した事業に取り組む。⑬	A		
	図書館利用を促進し、施設の整備を図る。	・掲示物の工夫や「図書館だより」の定期的な発行により、生徒の興味関心を喚起させ、図書館利用を促進する。⑧⑬	B		

別紙様式 2 (高)

		・定期的な図書購入と除籍をおこない、教育活動に役立つ資料を充実させる。④	B		事務局の組織化と業務工程の策定。
	教員と保護者が連携協力して活動を工夫する P T A 組織をめざす。	・ P T A 総会に出席していただけるよう、保護者の理解に努める。⑬	B		
		・学校行事への保護者の協力について検討する。⑬⑮	A		
		・ P T A 活動に対する保護者の負担感を減らす。⑮	A		
	各種委員会活動の適正な活動を計画支援する。	・広報紙「P T A だより」を発行する。⑬	A		
		・各種委員会活動の見直しを行う。⑮	B		
	同窓会との連携を図る。	・同窓会活動に協力する。⑬	A		
生徒支援部	基本的生活習慣の確立を図る。	・全職員の協働意識を図り、頭髮及び服装指導の徹底を図る。⑦	B	A	・頭髮服装指導や遅刻指導等を含めた基本的生活習慣の確立、授業を受ける姿勢、本校生としての規範意識を、より高めていけるような指導の徹底を図りたい。そのためには全職員の協働意識が必要なので、職員へ働きかける方法等を模索していきたい。 ・いじめの未然防止や教育相談の活用など、生徒への声かけ、面談や定期的なアンケート調査など、より徹底できるように工夫していきたい。
		・登校指導等を利用し、あいさつの励行に努める。⑦	A		
		・スマホ、携帯電話の使用モラルの浸透を図る。⑦	A		
		・集中して授業に取り組ませるための授業環境の改善を図る。⑦	B		
		・定期的なアンケート調査や面談を実施し、実態把握と未然防止に努める。⑨	A		
		・問題を抱えている生徒の実態を把握し、関係職員との情報の共有化を図りながら支援していく。⑦⑭	A		
	いじめ問題の未然防止に努める。	・学年と協力し、問題行動があった場合は保護者に来校を促し、学校での状況、指導を十分理解してもらった上で効果的な指導を進める。⑦⑮	A		
	交通安全の推進、意識の高揚を図る。	・自転車や原付バイク通学者の事故未然防止のため、乗車モラルの向上と交通法規の遵守を図る。⑦	A		
	保護者との連携強化を図る。	・些細なことでも、行動に変化が見られたり問題があった場合には、保護者へ連絡を入れ、情報を共有しながら支援にあたる。⑦⑮	A		
	教育相談の充実を図る。	・いつでも、ゆったりとした気持ちで相談活動ができるよう相談室の環境整備を行う。⑨	B		
		・カウンセラーによる教職員研修会を企画する。⑨	B		
進路支援部	適切な進路目標の設定支援に努める。 進学学習の充実を図る。	・進路説明会や講演会、適性検査等をとおして意識の高揚を図る。⑧⑩	B	B	医療系・看護系への関心が高く、進学者が多くみられた。1・2 学年を含めた看護体験参加希望者も増加しており、進学目的意識の早期確立と各専門分野への探求がみられる。次年度はこのような状況をふまえ、生徒 1 人 1 人が希望する進路を実現するために
		・的確な各種進路情報を会議資料や三者面談等をとおして、職員や生徒・保護者に向け迅速に提供する。⑧	B		
		・課外授業や模擬試験を充実させ、基礎学力の向上を目指す。⑥	B		
		・小論文や面接指導の充実を図る。⑥⑩	B		
		・ I C T 機器を活用し、自己管理能力を育み、学習習慣の定着を図るとともに、よりよい自己管理能力のあり方を検討・実施させる。①	B		
		・就職希望者の保護者への面談（3 年）、インターンシップ（2 年）、会社見学を実	B		

別紙様式 2 (高)

	就職指導の充実を図る。 (キャリア教育の充実)	施する。⑩			よりよい情報を提供することを目指す。 高卒求人は引き続き好調。 県内外から多数の募集があり、より良い条件の企業・事業所の選択ができるよう支援していきたい。
		・就職ガイダンスや模擬試験をととして就職試験対策の充実を図る。⑥	A		
		・就職希望者が正社員として就職できるよう、学年の先生方とともに計画・指導を行う。⑥⑧	A		
	キャリア・パスポートの活用を図る。	・ホームルーム活動や学校行事・進路行事をととして得たもの等を生徒が振り返る機会を設け、生徒自身のキャリア形成に活用できるよう促す。⑥⑩	B		
保健厚生部	環境美化や衛生管理に対する意識を高め、豊かな心身を育む学習環境の整備を進める。	・用具を整備して清掃能率が高まる工夫や、ゴミの分別を心がけることにより、校内美化への意識高揚を目指す。⑦	B	B	・今年度も予定通りに健康診断を終えることができた。引率で協力してくださった先生方に感謝申し上げたい。 ・消防署の協力をいただき避難訓練を実施できた。大震災の記憶がない生徒に、訓練や授業を通して地震への備えを学んでもらいたい。 ・保健室の機能の変化による養護教諭の負担増に対して、新たな体制作りの必要性を感じる。
		・校内設備環境の安全に配慮し、安全管理に努める。⑦	B		
	さまざまな震災から学び、安全確保や危機管理に関する安全教育を推進する。	・防災避難訓練を実施し、非常時における対応や安全対策に関する知識と意識を高める。⑦	B		
		・災害備蓄品の在庫や賞味期限等を管理する。⑪	B		
	心身とも健康で明るく活力のある生活を営む態度の育成を目指し、健康教育や学校保健教育の充実を図る。	・各健康診断を企画運営し、生徒の心身の健康状態を把握する。⑮	A		
		・学年の先生方や教育相談担当と連携した保健室運営を展開し、心の居場所作りを目指す。⑦	A		
		・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症に対し適切な対応を行い、校内での流行を最小限に食い止める対策を講じる。⑦	B		
特別活動部	生徒会活動への支援や生徒会主催の学校行事の充実を図る。	・昨年度に引き続き、生徒会本部の定例会を毎週実施し、指導助言をととして、生徒会役員のリーダーとしての資質の向上を目指す。また、活動内容については行事毎にPDCAサイクルを行い、作業の効率化や反省等をする。新しい行事を企画する。⑧	B	B	学校行事は無事に行うことができた。また、生徒だけでなく教員の業務効率を行うことはできた。その一方で教員の人手不足や経験不足が多くあり、ギリギリの状況で多くの業務を行っていた。 部活動の加入率は横ばいで増加していない。積極的に活動している部活動がある一方で、少人数による活動が続いている部活動も多い。
		・文化祭・クラスマッチ・予餞会等の企画内容を生徒自らが検討し責任をもって取り組み、達成感を得られるようにする。⑧	B		
	部活動の活性化を図る。	・新入生に向けて部活動紹介を実施し、全員に部活動入部届を配付するだけでなく、ポスター掲示や各部のPRを増やし、部活動への興味関心を高めるよう工夫する。⑧	B		
		・顧問の適材適所への配置、適切な予算の配分を行うとともに、外部指導者活用など今後の地域移行への体制を整える。⑧⑭	B		
	ボランティア活動・地域活				
		・ボランティア・地域活動の募集に関して、わかりやすい情報提供を行い、生徒の	B		

別紙様式 2 (高)

	動への積極的参加を図る。	主体的な参加を促す。⑪⑫			
第 1 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・言葉遣いに気をつけ、挨拶を適切にできるようにする。⑦	B	B	【成果】 ・学年全体で、生徒指導をするという雰囲気づくりが出来た。 ・各種検定に挑戦しようとする生徒が多かった。 【課題】 ・無気力な生徒に対する対応 ・多様な進路に対応するための自己理解、表現力向上のための指導の充実。
		・時間を守り、規律正しい生活をさせる。⑦	A		
		・毎日の授業に真剣に取り組ませ、学ぶ姿勢を育てる。⑤	A		
	基礎学力と学習習慣の定着を図る。	・各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。⑥	A		
		・自らの志望や適性について意識させ、進路目標を持たせる。⑩	B		
	進路目標を設定する。	・進路ガイダンスや面談を通して、進路選択の支援をする。⑩ ・部活動や生徒会活動、校外活動などへの積極的参加を促す。⑧	A B		
	活力ある学校生活を送る。	・服装・身だしなみを整えさせる。⑦	A		
第 2 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・欠席・遅刻・早退を無くし、規律正しい生活をさせる。⑦	B	B	【成果】 ・学年全員で取り組むという流れが定着し、みんなで乗り越えることができた。 【課題】 ・欠席・遅刻が多い生徒がおり、次年度は進路決定の時期なので改善させたい。 ・まだ、進路意識が高まっていない生徒がいるので、その生徒の意識を高めたい。
		・授業への積極的な取り組みを促す。⑤	A		
	基礎学力の向上を図る。	・各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。⑥	A		
		・基礎力診断テストを活用し、進路実現を意識した学習の取り組みを促す。②	B		
	進路指導の充実を図る。	・各種進路行事等の有効活用を図る。⑩	B		
		・面談や進路情報の提供をとおり、一人ひとりに合った進路選択を支援する。⑨	A		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・いじめの未然防止に努める。⑨ ・面談やガイダンスを通して、自らの志望や適性について自覚させ目標を持たせる。⑨	B B		
第 3 学年	進路希望の実現を図る。	・面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自らの進路に対して広い視野をもった判断ができるようにさせる。⑥⑩	A	B	【成果】 ・進路決定に向けて学年全体で適切な支援ができた。 ・進路決定に向けて学習や進路活動に積極的に取り組み、成績を向上させた生徒が多くみられた。 【課題】 ・生活指導（遅刻、欠席、服装等）の工夫と充実。 ・多様な進路に対応するための自己理解、表現力向上のた
		・進路指導が円滑に進むように、進路支援部や保護者との連携を密にする。⑥⑩	A		
		・日常生活を通じて、時間を守ることや挨拶の大切さ、適切な言葉遣いを身につけさせる。⑦	B		
	基本的生活習慣の定着を図る。	・服装・身だしなみを整え、最上級生としての行動ができるようにさせる。⑦	B		
		・保護者との連携を大切にし、信頼関係と協力体制の構築に努める。⑮	A		
		・授業に真剣かつ積極的に取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。④	B		
	基礎学力の向上を図る。	・家庭学習や課外授業を通して、進路実現を意識した学習の取り組みを実践させる。⑥⑩ ・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促すとともに、下級生の模	B B		

別紙様式 2（高）

		範となるような態度で臨めるようにさせる。⑦			めの指導の充実。
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・いじめの未然防止に努める。⑦	B		

※ 評価基準： A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分